

【生薬名】 麦門冬 *OPHIPOGONIS TUBER*

【起源植物】 ジャノヒゲ *Ophiopogon japonicus*

【科名】 ユリ科 *Liliaceae*



【別名】

【薬用部分】 塊状根

【主成分】 β シトステロール、配糖体、粘液質

【薬性】 気味は甘微苦微寒、帰経は心肺胃に属す

【効能】 ●潤燥生津・化痰止咳

●解熱、消炎、鎮咳、去痰、利尿、滋養強壮に、1日5～15gを煎服

●風邪や咳が長びいたり、声枯れするときに、1日10～20gを煎服

●強心や利尿作用があり動悸や息切れむくみにも使う

●強心には大量に使う、人参や五味子と共に使えば効果的

●体力の弱い人の便秘に使うこともある

●厳密にはジャノヒゲを小葉麦門冬、ヤブランを大葉麦門冬といい区別はするが通常はどちらも麦門冬として使っている、生薬の大きさはヤブランの方が大きく2倍位あり遙かに大きい

●ナガバジャノヒゲ(これが俗に言うリュウノヒゲ)は葉の長さは30cm以上にもなる、株を形成しない。ジャノヒゲの葉は長くても10cm位で株を作る。どちらの塊状根も同様に麦門冬として使う

【出典】 ●療煩熱、止嗽、潤燥。(一本堂薬選)

●麥門冬. 味甘平. 生川谷. 治心腹結氣. 傷中傷飽. 胃絡脉絶. 羸瘦短氣. 久服輕身不老不飢.(神農本草經中品)

●麦門冬 甘寒、渴を鮮くし、煩を祛り、心を補い、肺を清し、虚熱自ら安んず。(薬性歌)

【備考】 ●麦門冬、天門冬、栝楼根について、共通点は清肺潤燥の効がある点、違う点は胃熱により生じた肺熱には栝楼根、心熱により生じた肺熱には麦門冬が、腎陰虚により生じた肺熱には天門冬が適する

【処方例】 ●麦門冬湯、炙甘草湯、生脈散、温経湯、滋陰至宝湯